

サステナビリティの取り組み

公正で誠実な企業活動を通じて「持続可能な社会の実現」と「企業価値向上」の両立を図り、企業としての社会的責任を果たしていきます。

サステナビリティ基本方針

シーシーアイグループ
サステナビリティ基本方針(抜粋)

私たちシーシーアイグループは、企業理念に基づき、すべてのステークホルダーと責任ある対話を行い、公正で誠実な企業活動を推進し、「持続可能な社会の実現」と「企業価値向上」の両立をめざし、社会的責任を果たします。

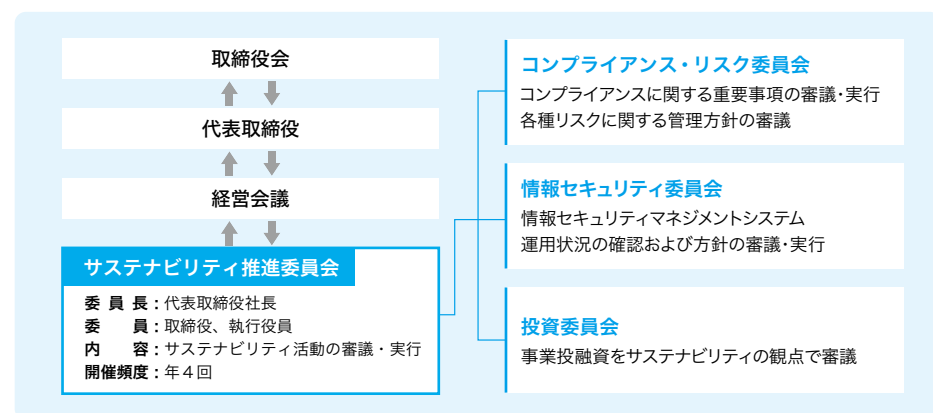
WEB シーシーアイグループ
サステナビリティ基本方針(全文)

サステナビリティ推進体制

シーシーアイグループは、サステナビリティ活動を推進するにあたって、2022年4月に代表取締役社長を最高責任者とする「サステナビリティ推進委員会」を設置し、その下部組織として「コンプライアンス・リスク委員会」「情報セキュリティ委員会」および「投資委員会」の専門委員会を設置しました。定期的に委員会を開催し、各種の活動に取り組んでいます。

委員会の実施

- グループのサステナビリティに関する活動方針策定
- ESG、SDGs活動のモニタリング
- ステークホルダーへの情報発信と対話
- 社内浸透
- 取締役会への報告



社外からの評価・認証の取得

- 国際的な評価機関であるEcoVadis 社によるサステナビリティ評価(2025年1月)において「Bronze Medal」を獲得
- 2023年「ぎふSDGs推進パートナー」登録制度にて「ゴールドパートナー」認定



教育の実施

シーシーアイは、サステナビリティ経営を推進していくため、世の中の動向や当社の取り組み状況を知り、意識の向上に取り組んでいます。

- サステナビリティ基本知識研修
- サステナビリティ推進担当ミーティング



サステナビリティ基本知識研修の様子
(2024年4月)

参加型社会貢献活動の実施

シーシーアイは、従業員のサステナビリティ意識向上を目的として、様々な地域・社会貢献活動に取り組んでいます。

- 工場周辺の清掃活動を通じた地域環境の美化
- ペットボトルキャップの回収による、児童への医療支援
- 使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収による、就労支援団体への協力
- 本・おもちゃ・ぬいぐるみの回収を通じた、子どもの学習機会の支援
- 日用品の回収による、生活困窮者への支援活動
- 令和6年能登半島地震への支援(マッチングギフト)

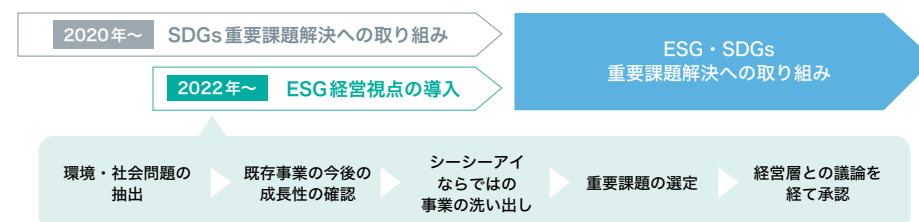


関工業団地内清掃活動の様子(2024年12月)

シーシーアイグループのマテリアリティ

シーシーアイは、環境・社会・経済の変化や社会的課題を的確に把握、分析しサステナビリティ活動におけるマテリアリティ(重要課題)を選定しています。これらの課題を事業活動と結び付けるため、各部門のKPIとして設定し、世界の人々に安心・安全・快適な環境を提供し続けていきます。

ESG優先課題特定のプロセス



重要課題およびKPI

達成率の凡例 ◎:達成率100%超 ○:達成率80～100% △:達成率80%未満

活動領域	重要課題	ESG	優先課題(2030年度までの具体的な取り組み)		2024年度KPIの達成状況	関連ページ(24年度実績)
事業活動	安心・安全・快適なモビリティ環境の提供	E	次世代モビリティ向け製品の開発	メンテナンス軽減製品の開発	△	P.22
	静かな空間の創造	E	新たな技術を駆使した環境配慮製品、サービスの提供	制振・吸音材導入による住環境の向上	○	P.15
		E		制振・吸音材導入による住環境以外の環境の向上	△	P.15
		E		オイルバニッシュ(油脂分解微生物製剤)の拡販	△	P.15
	サーキュラーエコノミーへの移行	E	使用済製品の回収～再資源化のビジネスモデルの構築	廃棄LC、BF量(国内)の10%(1万kL)を回収、再資源化し活用	○	—
		E	リサイクル可能な素材への切り替え(廃棄物の削減)	使用材料の見直し・切り替え	○	P.14
		E		リユース事業の拡大	△	P.22
		E		工場廃液量(2019年)の50%を再資源化(削減を含む)し活用	△	P.23
		E		プラスチック削減の取り組み	△	P.10
		E	脱石油由来原料製品の開発	量産化技術の確立	△	—
	健康、生活の質向上	E	特定化学物質、環境負荷物質の管理および使用の削減～使用ゼロ	工程等の見直しによる特定化学物質・環境負荷物質の使用ゼロ	△	P.23
		S		環境問題を引き起こす事故・汚染0件	○	—
全社活動	健康、生活の質向上	S	スポーツ振興等を通じて地域社会貢献活動の推進	文化・芸術・スポーツ活動への協賛	○	P.25
	気候変動への対応	E	Scope1、2対象CO ₂ 排出量 2030年度に2019年度比30%削減	CO ₂ 削減エネルギー対策プロジェクト活動	○	P.22 P.31
		E	Scope3の算定、監視	グローバルのScope3 算定を実施	○	—
	働きがい向上および企業活性化	S	従業員エンゲージメントの向上	エンゲージメントサーベイのスコア向上 多様性の実現 職場環境改善、制度の見直し	○	P.27 P.31 P.32
		S	業務可視化とデジタル化による生産性向上、ペーパーレス化	デジタル化による生産性向上、ペーパーレス化を推進	○	P27
	人権尊重に対する取り組み	S	人権DDプロセスの構築	CSR調達ガイドラインに則した、人権DDプロセスの構築	○	P28
		S	サプライチェーンにおける人権の取り組み	サプライチェーンにおける人権の取り組みを推進 人権SAQ回答率100%	○	P28
	コンプライアンスの強化	G	コンプライアンスに対する取り組み	コンプライアンス研修受講率100%	○	P32
		G	情報セキュリティ体制の強化	重大セキュリティインシデント0件	○	P32